

基本施策 24 文化・芸術活動の推進

■めざすまちの姿

郷土の歴史・文化を学び、地域との結びつきや価値を見出すことで、ふるさとへの誇りと愛着を持つとともに、国際交流による異文化への理解を深め、伝統と豊かな文化に息づいたまちをめざします。

■現状

- ◇本市は、播磨国風土記にも記されているように長い歴史を有し、御形神社などの歴史的建造物や貴重な史跡、千町岩塊流などの天然記念物も数多く残されており、地域にはチャンチャコ踊りや獅子舞、伝統的な祭りなどの民俗芸能や伝統行事が伝えられています。
- ◇郷土の歴史や伝統文化に対する理解と関心を高めるため、宍粟学講座を開催しているとともに、県との協力により千種のたたら製鉄に関するフォーラムを開催しています。
- ◇市民の自主的な文化芸術活動の促進を目的として宍粟市文化協会への支援、芸術文化奨励金の支給などを実施しています。
- ◇外国人市民同士の交流や市民と外国人との交流など多様な交流機会として、お茶っトルームや日本語教室、国際ふれあいまつりなど、国際交流協会の活動支援を行っています。

■課題

- ◇市民が郷土の歴史や伝統文化への理解と関心を高め、文化財や伝統文化を後世に継承していくことが重要です。
- ◇伝統芸能保存団体では構成員の高齢化により、団体の存続が難しくなっている地域もあり、後継者の確保・育成が必要です。
- ◇文化財や歴史展示施設などを学校教育や観光振興にも活用の幅を広げていくための検討が必要です。
- ◇外国人が暮らしやすい環境づくりを進めることが必要です。

■個別施策の方向性と主な取組（★は総合戦略事業に関連する取組）

<p>① 歴史と文化資源の保全・活用</p> <p>《施策の方向性》</p> <p>市民の郷土の歴史や伝統文化への理解と関心を深めるため、歴史と文化資源の保存・継承と有効活用を図ります。</p> <p>《主な取組》</p> <p>①-1 指定文化財の保護、未指定文化財の情報収集と調査、古文書資料整理等を行い、貴重な歴史資料を後世に継承します。</p> <p>①-2 地域の歴史や文化、郷土への理解を深めるため、より身近なテーマから専門性の高い内容まで、多様なニーズに対応した学習機会を提供します。</p> <p>①-3 関係機関等と連携して歴史や伝統文化の保存、継承に取り組むとともに、文化財等について学校教育や観光振興への活用を検討します。</p> <p>①-4 伝統技術や歴史を継承する支援を行います。</p> <p>①-4 歴史的・文化的に関連が深い地域との連携を図ります。</p>
--

<p>② 地域の文化・芸術活動の推進</p> <p>《施策の方向性》 地域の特性や文化・芸術資源を生かし、市民が文化・芸術に触れる機会の創出と主体的に活動できる環境づくりに努めます。</p> <p>《主な取組》</p> <p>②-1 文化・芸術活動の発表の機会や場所を提供します。</p> <p>②-2 近隣市町との連携も含め、文化・芸術活動グループや団体について、交流による情報交換や課題の共有を促進するなど、持続可能な組織づくりに向けた取組を支援します。</p> <p>②-3 文化財や伝統芸能などの保存について支援するとともに、次世代に継承するための人材育成に取り組みます。</p> <p>②-4 宍粟市の歴史や伝統、文化等に関する情報を市外に発信していくとともに、市外の方との文化芸術活動を通じた交流の活性化を図ります。</p>
<p>③ 多文化共生と国際交流活動の推進</p> <p>《施策の方向性》 異文化を理解し、文化の違いを尊重する多文化共生の地域づくりに向け、多様な交流活動を促進するとともに、外国人が安心して生活できる環境づくりを推進します。</p> <p>《主な取組》</p> <p>③-1 国際交流協会の活動を支援するとともに、協働により外国人市民同士の交流や、市民と外国人との交流など多様な交流機会の確保に努めます。</p> <p>③-2 異文化に対する相互理解を深める交流の場を提供するとともに、外国人が住みやすい環境づくりに努めます。</p>

■まちづくり指標

指標名	単位	現状値 (R2)	目標値 (R8)	数値の出所（算出方法）
文化芸術施設入場者数	人/年	96,611 (H30)	97,200	担当課保有の管理台帳 (山崎文化会館、宍粟市歴史資料館、山崎歴史郷土館、波賀城史蹟公園、たたら の里学習館の入場者数)
【目標値の考え方】 過疎化や少子化などの影響により人口減少傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がなかった平成30年度実績値(96,611人)を基準に年間で約100人の増加を目標とする。				
市指定文化財件数	件	115	124	担当課保有の管理台帳(年度末)
【目標値の考え方】 文化財への指定には、文化財審議委員会での審議が必要であり、年間で1・2件程度の指定が現実的であることから、概ね年間1.5件の増加を目標とする。				
外国人との交流イベント参加者数	人/年	483 (R1)	573	国際交流協会が行う交流イベントの集計
【目標値の考え方】 現状値からの大幅な増加は困難であることからR1実績値(483人/年)を基準に年間15名の増加を目標とする。				
宍粟学講座受講者数	人/年	234	269	担当課保有の管理台帳
【目標値の考え方】 過疎化や少子化などの影響により人口減少傾向にあるが、現状値を基準に毎年5人以上の増加を目標とする。				

■関連する個別計画

- ・ 宍粟市社会教育振興計画
- ・ 宍粟市男女共同参画プラン